

「2017年度の根室市予算編成等に関する要望書」を提出しました

2016年12月27日

日本共産党根室市委員会と根室市議団は、根室市と市教育委員会に対し「2017年度の根室市予算編成等に関する要望書」を提出しました。

要望内容は、領土問題や産業、くらし福祉教育など市政や地域に関わる国政に関する8分野の76項目です。

懇談の中で私たちが特に市長に直接訴えた内容について一部ご紹介します。

●12月の日ロ首脳会談はあまりにもひどい結果だった。市長としても、国に対して怒りをもって声をあげてほしい。

領土返還が難しい交渉になるは当然だが、それを避けたのでは日本の主権がどこかへいつてしまう。私たちは、これまでの領土問題に対する外交政策をきちんと検証する必要があるのではないかと考えている。



●共同経済活動については、これから1市4町で連携して取り組んでいく必要がある。

その中でもいわゆる「自主規制ライン」について、あの海域こそ共同経済活動の絶好の海域として考えられる。

お互いの法的な立場がいろいろあるが、これまで安全操業という制度もやってきたのでなんらかの形で共同経済活動を行い、漁獲の半分でも日本側に水揚げが出来れば、サケマスの減少分をカバーする有効な経済活動になるのではないかと。

●先日、納沙布岬に北方領土資料館もオープンしたところだが、そういった施設も含めあらためて修学旅行生の誘致に取り組んでいく必要がある。

内閣府の事業を活用して管内を訪れる修学旅行生は例年1,000人以上だが、そのうち根室市内に宿泊する数は100人以下。あらためて啓発学習の取組みと観光を結び付けた積極的な取り組みが必要と考える。

●防災では最近の異常気象に対応できる体制をとるために、標津町では気象予報士を配置し、また厚岸町では潜水士が消防に7人いると聞いている。

大災害への対策を視野に入れて、専門的な職員の配置を検討すべきではないか。

●水産加工の分野では、現在根室市でも専門家を交えた検討会議を実施しているが、検討した結果を活かしていく、推進していく上で水産加工振興センターの役割や今後のあり方をしっかりと議論する必要がある。

●市立病院の分娩再開への期待要望の声は強い。今まで以上の積極的な取り組みをお願いしたい。

●本年度は年度途中で保育園入所したくても、保育士の体制が厳しく、また臨時保育士を募集しても応募がないため、年度途中の入所の受け入れが難しい状況となっていると聞いている。子育て支援の要である保育園・保育士の体制について、年度当初からしっかりと検証をしていく必要がある。

●地域包括ケアや総合事業などもふくめ、ボラ

ンティアの体制が必要になっていく。それは地域コミュニティの問題で、専門的な職員を配置して地域に入りながら、コミュニティを立て直していく必要がある。

また、教育委員会の社会教育主事の体制についても、若い人もふくめ充実させて、そうした専門職がもっと地域に入っていけるような体制になる必要がある。

市長は、要望項目が具体的に書いてあるので、今後の予算編成の参考にしていきたいと答えていました。

こうした政府の問題に対して地方からしっかりと声をあげながら、私たちもしっかりと知恵を出し合って、市民の生活をまもる自治体行政をいっしょに作っていきたいと思います。

災害のない ー根室市消防出初式ー 穏やかな1年となりますように

2017年1月7日

根室市消防出初式が開催され、市温水プール駐車場で観閲、分列行進などの屋外行事の後、市総合文化会館で消防庁長官表彰など表彰式が行われました。

式典の市長あいさつ等によると、昨年の根室市の火災発生件数は9件(前年15件)で、6年連続で焼死者火災を続けているそうです。消防職員・団員の方々のご努力に感謝と敬意を表します。

また昨年8月の台風被害など、近年の災害ではこれまで経験が無いような大きな被害をうけてきました。こうした自然状況の変化に応じた防災力向上にむけて、行政をはじめ地域のみなさんと力あわせ取り組んでいきたいと思っています。



しかめっ面より笑顔の一年に

2017年1月9日
 衆議院議員 畠山和也

衆議院の解散・総選挙の可能性が高い年となり、緊張感をもって新年を迎えました。元旦には、紙智子参議院議員と川部竜二比例予定候補(小選挙区3区重複)とで初詣のみなさんに新年の抱負と決意を述べました。

昨年は1月4日から国会が始まり新年のあいさつもそこそこに上京しましたが、今年は党と後援会や各界各層のみなさんとも交流を深めることも。しかし広い北海道ゆえ、この紙面のみでごあいさつとなる方もいるかと思ひます。ご容赦ください。

私の友人に、フリースクールで支援している男性がいます。足を運んだら、私の顔を見るなり「あの首相はひどいね」と新年の第一声。「もう選挙で落とすしかないよ」と、野党の統一候補へ期待というより「これしかない」という話にもなりました。

どこを回っても、市民と野党の共闘で安倍政権をかえる年に！との話があふれかえります。

安倍政権の危険性には怒り充満の一方で、党と後援会の新年のつどいは、どこも元気で明るい。しかめっ面の一年よりは、笑顔があふれる一年に。

労働者の後援会員からは「選挙になったら楽しくやろう」と早くも戦闘モード！

私は今年、二つのことに力を注ぎたい。平和主義や基本的人権など、政治の中心に今こそ憲法を据えて、安倍首相の憲法改悪を止めること。

安心して地域に住めるために、農林漁業や地域経済、医療・介護、JR北海道問題など政策をみがきあげること。

今年もよろしくお祈りします。